

学校だより No.8

## あかさき

北九州市立赤崎小学校  
校長 田村 嘉浩

学校教育目標 「豊かな心を持ち 自ら学び 健康でたくましく生きる児童の育成」

- あいさつをする子ども
- かんがえる子ども
- さいごまでがんばる子ども
- きまりを守る子ども

## 平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

## 1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	・書く能力に関する問題については、よくできていた。 ・言語についての知識・理解・技能に関する問題(学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く問題・敬語の問題・主語・述語の関係を考える問題)に課題が見られた。
国語B	・無回答率は、全国平均に比べ低かった。何か答えを書こうという意欲が見受けられた。 ・資料から、必要な情報を取捨選択し、それらに関係付け条件に合うように書く問題に課題が見られた。
算数A	・量と測定に関する問題(単位量あたりの大きさ、面積、角の大きさ)については、よくできていた。無回答もほとんどない。 ・数と計算(小数の除法に関する文章問題)、図形(空間の位置を求める問題、円周率に関する問題)に関する問題に、課題が見られた。
算数B	・無回答率は、全国平均に比べ低い。何か答えを書こうという意欲が見受けられた。 ・数量関係(グラフから分かることを読む取る問題、分配法則に関する問題)に関する問題に課題が見られた。
理科	・無回答の問題がなかった。何か答えを書こうという意欲が見受けられた。 ・自分の予想があっていたら、実験結果はどうなるか考える問題や、実験結果を基に考察し、その内容を記述する問題に課題が見られた。

## 2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の夢や目標をもっていると答える児童は、全国に比べても高い数値にある。</li> <li>・家で宿題をしていると答えた児童は100%である。しかし、家で計画を立てて勉強していると答えた児童は約40%、平日の勉強量が1時間以上と答えた児童が約30%で、どちらも全国に比べてかなり低い。</li> <li>・学習中の友達との話し合い活動の有効性を感じている児童は、全国と同程度である。しかし、理科の学習で、自分の考えを周りの人に説明したり発表したりできていると答えた児童は、約30%、自分の考えがうまく伝わるように、話の組立て等を工夫して発表していたと答えた児童は約45%と全国に比べ、低い結果となった。自分の考えを説明することが難しいと感じていることが、全国に比べ高いということが分かった。</li> </ul>

## 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

## ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・「話し合う活動」と「書く活動」を一単位時間に必ず位置付ける。特に「書く活動」の習慣化を目指す。
- ・学力向上のための特設時間(朝自習)「赤崎タイム」を継続して実施する。
- ・過去問題、アシストシート、学力定着サポートシステムの活用を図る。

## ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・「赤崎小家庭学習の手引き」等を用いて、家庭学習の内容や時間等を引き続き家庭に啓発していく。
- ・全国学力・学習状況調査、CRTの課題と取組を保護者へ周知する。(学校だより・ホームページ)
- ・小6スクリーニングによる中学校教師の授業参観を行い、課題解決の方法を共に探る研修会を実施する。